

兵庫協  
会  
西宮  
支  
部  
ニ  
ュ  
ー  
ス

No. 323  
2015・1・5

発行  
兵庫  
県  
保  
険  
医  
協  
会  
西宮・芦屋支部  
西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内  
連絡先 兵庫県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇三

# 映画『シェーナウの想い』上映会 ドイツの「市民による電力会社」から 原発ゼロの見通しなど学ぶ

11月15日、協会会議室で「阪神淡路大震災20年の集い」のプレ企画として、映画『シェーナウの想いー自然エネルギーをこどもたちにー』上映と講演会を開催。映画の上演後には関西学院大学准教授の朴勝俊(パク・スンジン)先生による映画の解説も行われ、医師、薬剤師ら10人が参加した。参加していた林田英隆先生からの感想文を掲載する。

11月15日(土) 西芦支部「阪神淡路大震災20年の集い」プレ企画として「シェーナウの想いー自然エネルギーをこどもたちにー」ドキュメンタリー映画の上演と関西大学教授の朴勝俊先生の講演が協会会議室で行われました。

アメリカは広島、長崎に原子爆弾を投下して約10万6000人の死者と約11万人の負傷者を出しました。その後1948年、アメリカが太平洋で核実験を行い、1949年、ソ連が核開発能力を備えるに至り、それを受けて、アメリカはより強力な水素爆弾の開発を進め、1952年11月に爆発実験を成功させました。その後、アメリカが率先して、核の平和利用を提唱し、アメリカをはじめ、先進国はこぞって、原子力発電所を建設しました。そして、



映画『シェーナウの想い』について解説する朴先生



映画上映後に朴氏と原発問題などについて懇談する参加者

原油の価格高騰と地球温暖化防止を背景として、原子力発電所の建設を推進してきました。

日本で最初の原子力発電が行われたのは1963年(昭和38年)10月26日、東海村に建設された動力試験炉です。それ以来、廃炉を含めて、55基の原子力発電所が建設されました。京大の小出先生は火山国、地震国の日本にはどこにも建設できる場所はないと提唱されていました。当初から、原発の危険性は論じられていましたが、その不安が現実のものとなりました。1979年3月のスリーマイル島原子力発電所事故、1986年4月26日ウクライナのチェルノブイリ原子力発電所4号炉で起きた原子力事故、そして、2011年3月11日の東日本大震災に起因するチェルノブイリ事故と同じINESレベル7の重大事故が福島第一原子力発電所に発生し、今なおその処理に見通しが立っていません。しかし、政府は鹿児島の川内原発の再稼働を決めました。今こそエネルギー政策の見直し、節電、再生可能なエネルギー100%の安全な未来を子供たちに残すべきです。

この映画はドイツ南西部、黒い森の中にある小さな町シェーナウ市民グループがチェルノブイリ原発事故をきっかけに「自然エネルギー社会をこどもたちに」と

いう想いから、ドイツ史上初の「市民の市民による市民のための」電力供給会社を誕生させるまでの軌跡を綴るドキュメンタリーです。

60分の上映の後は、朴先生の講演が行われました。原発の経済性、長期の問題、2030年の原発ゼロの見通しなどについてお話しされました。そして、強調されたのは電力市場こそが節電所であるということでした。2011年8月管政権の時に創設された「再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度」についても話されました。

私ごとですが、この制度に当初から興味があり、三木市に所有している1000坪の土地に太陽光発電所を設置し、1月より関西電力会社に買い取っていただきます。

【西宮市・林田クリニック 林田英隆】

## 世話人会だより

西宮・芦屋支部は11月28日に西宮中央公民館で世話人会を開催。4人が参加した。

### 【報告】

①『シェーナウの想いー自然エネルギー社会を子どもたちにー』上映・講演会(11・15)

②第14回胸部X・P読影会(11・20)

### 【予定・企画】

①支部忘年会(12・27)

②阪神淡路大震災20年の集い(1・17)

③第30回在宅医療研究会

④ Medical English #43

⑤第21回医療過誤訴訟セミナー(4・18)

⑥但馬支部との交流企画

⑦メディカルスタッフ勉強会

⑧第32回漢方研究会

⑨第25回日常診療ガイドライン

### 【協会行事】

①阪神淡路大震災20年メモリアル企画(1・17)

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

兵庫県保険医協会／協会西宮・芦屋支部

阪神・淡路大震災20年の集い

阪神・淡路大震災から20年。兵庫県保険医協会・協会西宮芦屋支部は、前回5年前の集いに引き続き、「阪神・淡路大震災20年の集い」を開催いたします。今回は「震災経験を語り継ぐ・風化させない・新たなつながりを拓ける」ことを目的に、阪神・淡路大震災と東日本大震災を軸に、災害経験の中でいのちと暮らしを見つめ、ともに考える場としたいと思います。市民、ボランティア関係者、医療関係者など、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：1月17日(土)12時～  
会場：西宮市役所東館(入場無料)

■ 報告・特別講演・対談(13時～大ホール)

- ・二胡の調べ 二胡演奏者 劉揚氏
- ・阪神・淡路大震災 一開業医が経験したこと  
西宮市・広川内科クリニック 広川 恵一 院長
- ・東日本大震災の医療現場での経験  
南相馬市・大町病院 猪又 義光 院長  
藤原 珠世 看護部長
- ・特別講演・対談「原発のない世界へー平和に生きる権利を」  
京都大学原子炉実験所助教 小出 裕章 氏  
映画監督 鎌仲 ひとみ 氏



小出裕章氏

■ 被災地の医療・社会保障を考えるパネルディスカッション(17時～大ホール)

- 青森市・大竹整形外科院長 大竹 進 先生
- 元・岩手県立高田病院院長 石木 幹人 先生
- 岩手県立高田病院臨床心理士 行本 清香 氏
- 元・宮城県気仙沼市立本吉病院院長 川島 実 先生
- 松島医療生協松島海岸診療所歯科 井上 博之 先生
- 福島医療生協いの診療所所長 松本 純 先生
- 東京都中野区・中村診療所院長 中村 洋一 先生
- 兵庫県災害医療センター顧問 鶴飼 卓 先生
- 日本福祉大学名誉教授 金持 伸子 先生



鎌仲ひとみ氏

■ 展示・実習等

- ・市民のための心肺蘇生実習コーナー 12:00～
- ・災害と復興の記録展示ブース 12:00～

【協賛】西宮市職員労働組合／介護保険を良くする西宮市民の会

【後援】西宮市／西宮市教育委員会／西宮市文化振興財団／芦屋市／芦屋市教育委員会／神戸新聞社

◆お問い合わせは、協会事務局 岡林・山田・伊藤まで Tel:078-393-1803 ◆



持ち寄った症例について真剣な討議を行う参加者

多数の症例について真剣に意見交換

11月20日、西宮渡辺心臓・血管センターで、第14回胸部X-IP読影会を開催。原秀樹先生(尼崎市・はら内科クリニック)がアドバイザー、橋野盛彦先生(西宮市・橋野医院)が司会を務め、医師6人が参加した。

参加者はそれぞれ日々の診察で撮影した胸部レントゲン画像を持ち寄り、自分の診断が適切かどうか、疾患を疑う陰影をどう診るべきかなど、画像からどのような診断を行うべきかを検討した。

今回は、4人の医師が持ち寄った計14症例について、「肺の影の特徴から結核が疑われるので、喀痰検査を行った方が良いのではないか」、「中高年の女性で血痰が出る場合は、気管支拡張症が疑われる」、「長引く咳は副鼻腔炎の可能性もあるので耳鼻科的な見地からの診断も必要ではないか」、「肺炎等が原因の陰なのか、骨の重なりによる影なのか判別が難しいのでCTを撮ってみるべきではないか」など真剣な意見交換がなされた。

アドバイザーの原先生からは器質化肺炎を疑う症例、司会の橋野先生からは結核を疑う症例や喘息患者の症例なども紹介され、活発な討議となった。

参加者からは、「今回も非常に実践的な討議ができたので、とても勉強になった」、「また先生方の意見を聞きに事例を持ち寄って参加したい」などの感想が寄せられた。

第21回医療過誤訴訟セミナー

【日時】4月18日(土)17時～19時

【会場】西宮市民会館501会議室

【テーマ】「医療事故調査制度にどう対応するか?(仮)」

【講師】「現場からの医療事故調ガイドライン検討委員会」委員

いつき会ハートクリニック(東京都葛飾区)院長 佐藤 一樹 先生

【司会】西宮市・半田医院 院長 半田 伸夫 先生

【アドバイザー】米田泰邦法律事務所・弁護士 鶴飼 万貴子 先生